プロジェクト課題No. 2
いちごの栽培技術レベルアップによる収量向上

対象：階上いちご第２復興生産組合，シーサイドファーム波路上株式会社

計画期間：令和４年度～令和５年度

チーム員：◎柏谷，平，降幡，櫻田，猪野

１　課題の背景（対象の概要）

○階上いちご第２復興生産組合（気仙沼市）

・平成25年設立，構成員３名，１名あたりの栽培面積は約20a

・平成26年からいちごの栽培を開始した。

・令和３年度に新たな生産者が１名加入している。

○シーサイドファーム波路上株式会社（気仙沼市）

・平成28年設立　いちごの栽培面積約50a

・平成30年からいちごの栽培を開始した。

・いちご部門は，若手社員２名を中心に生産が行われ，年々生産量が上がっている。

2　課題の背景（ねらい）

・令和３年度の階上地区全体の平均収量は3.6t/10aである。

・対象生産者の平均収量は3.0t/10a程度である。

・階上地区内において，生産者ごとに約2.0t/10aの収量差があり，この収量差が課題となっている。

・令和３年度から新たな生産者が加入しており，階上地区のいちご生産者が相互に技術交流する契機となっている。

対象生産者の栽培技術レベルの向上及び生産者間の交流を促進させるような普及活動が求められてる。

○活動を通じて
・いちごの増産

3　設定した目標

定性的目標（令和４年度）	活動事項
①　年間を通した栽培技術支援により基本的栽培技術が習得される。	基本的栽培技術習得支援
②　環境データ等の先進的技術を活用した栽培管理への理解が深まる。	先進的技術を活用した収量向上支援
③　生産者同士の交流により栽培を客観的に見る機会が増え，技術習得に向けた意識の醸成が図られる。	生産者間交流支援

定量的数値目標

１月末時点の収量（総収量目安）

0.9t/10a【R３年度】（3.0t/10a）　⇒　1.0t/10a【R４年度】（4.5t/10a）　⇒　1.1t/10a【R５年度】（5.0t/10a）

4　これまでの活動状況①－１

基本的栽培技術習得支援

○適期の栽培管理をとりまとめた「気仙沼いちご便り」の発行及び活用

・階上地区のいちご栽培において，薬剤の選定や今後の栽培管理のポイントをとりまとめた「気仙沼いちご便り」を月１回程度発行し，この資料を活用した巡回指導を年間を通して行った。

⇒計画的に作業を進めるための資料として活用された。

気仙沼いちご便り【Vol.3】

栽培終了に向けた潅水設定・次作に向けた準備

気仙沼農業改良普及センター　2022 年 5 月 27 日

いちごの農薬の使用回数は，親株からランナーを切り離した時点でリセットされます。

1　栽培終了に向けた潅水設定について

ヤシガラ培地内の肥料分を株に吸収させ，次作に残さないことが重要です。出荷終了の 1 週間～10 日前から養液濃度を徐々に下げ，最後は水に切り替え潅水しましょう。

〈栽培終盤の「とちおとめ」潅水設定例〉

日付	5 月 30 日	6 月 5 日	6 月 10 日	6 月 20 日
目安	出荷終了 10 日前	出荷終了 5 日前	出荷終了	片付開始
EC	0.7	0.3	0.0（真水）	0
潅水量	360ml/1 株/ 1 日	360ml/1 株/ 1 日	360ml/1 株/1 日	0

2　次作に向けた準備について

定植日を予め想定し，逆算して作業スケジュールを組みましょう。短日処理栽培において，階上地区の定植適期は例年 9 月 10 日前後です。短日処理期間を 30 日と

4　これまでの活動状況①－２

基本的栽培技術習得支援

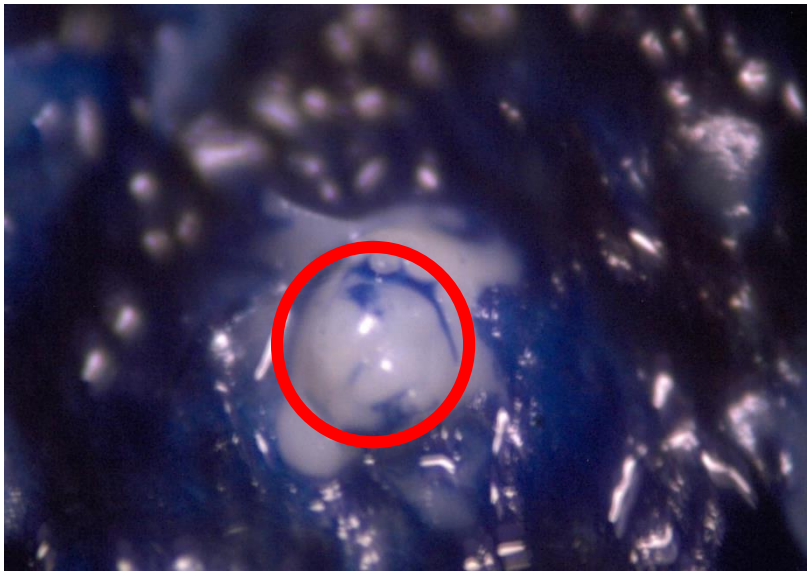
○花芽分化検鏡の実施及び結果に基づく適期定植指導

・いちごの早期収量及び総収量を確保するためには，花芽が分化した時期に定植する必要がある。

・花芽分化を顕微鏡で確認し，分化時期に応じた定植を指導した。

⇒分化ステージに応じて適期に定植作業が実施された。

分化期に入っていないので，もう少し待ちましょう。



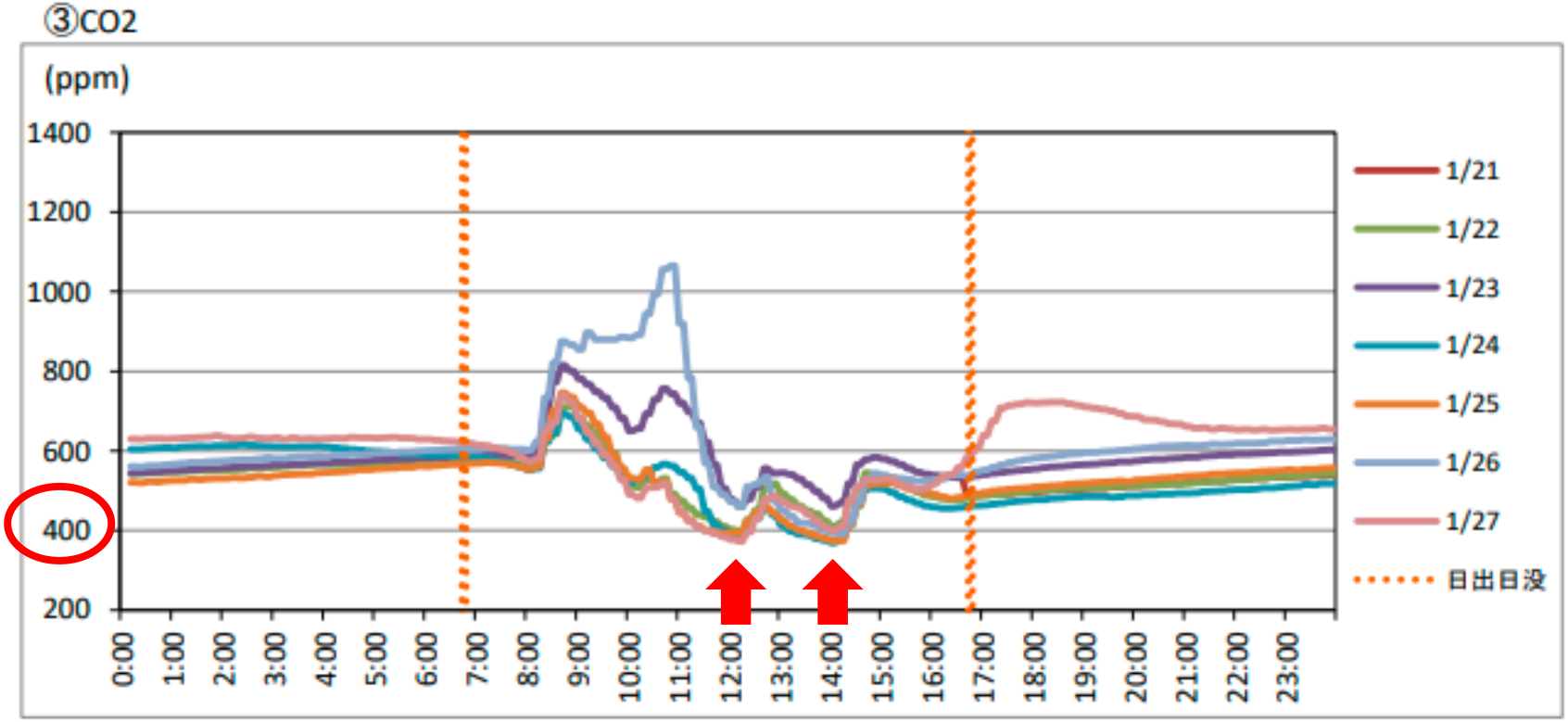
分化期に入っているので定植しましょう。

4　これまでの活動状況②－１

先進的技術を活用した収量向上支援

○環境モニタリングデータを活用した高度な栽培管理の実装

・環境測定機器から取得した温度・湿度・CO_2等の環境データをとりまとめ，「ウィークリーレポート」にまとめてハウス内環境の変化を見える化した。この資料をもとに生産者への指導を行った。



○基準値400ppmを下回っている時間は要改善!!

4　これまでの活動状況②－２

**先進的技術を活用
した収量向上支援**

・得られたデータを活用し，栽培マニュアル等と比較しながら生育に適した養液濃度や温度管理を指導した。

(↑TBS NEWS DIGより引用)

⇒・勘や経験だけでなく，数字に基づいた栽培管理が行われるようになった。
・肥料や燃料の価格上昇を踏まえ，“ムダ”のない栽培管理が実施された。

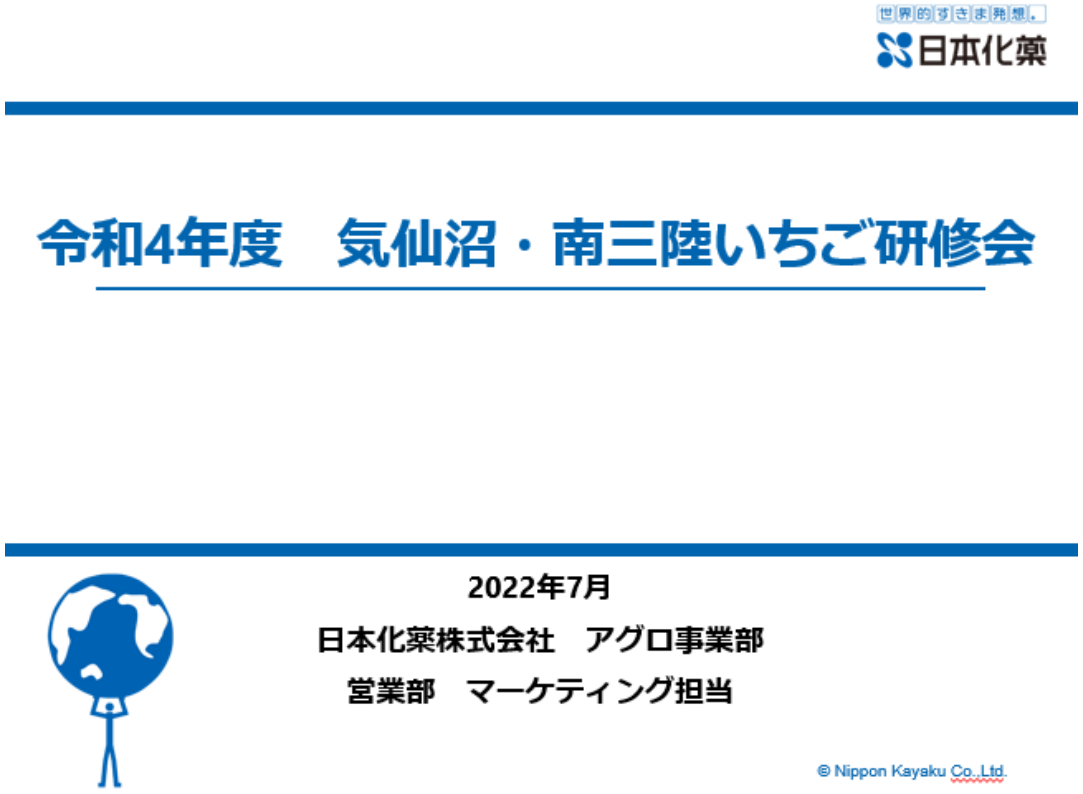
4　これまでの活動状況③－１

生産者間交流支援

○いちご農薬研修会の開催

・日本化薬株式会社の技術担当者を講師として招き，総合的病害虫防除（IPM）等についてご講演いただいた。

⇒生産者間で活発な意見交換が行われ，有意義な研修会となった。



4　これまでの活動状況③－２

生産者間交流支援

○地区の先進的な生産者との交流促進支援

・階上いちご部会の部会長であり，高い収量を誇る三浦氏のほ場を視察する交流会を開催した。また，三浦氏に対象生産者のほ場を見てもらう機会を設け，栽培管理についてアドバイスを頂いた。

⇒先進的な生産者の栽培管理について，客観的に見て学ぶ機会を創出することができた。

5　これまでの活動成果①

①育苗から定植まで計画的な作業の実施により，早期収量が確保された。

・対象生産者全体で，前年度より収穫開始時期が前進化し，単価の高い年内収量（※11月～12月JA出荷分）が前年比257％増加した。シーズン全体を通して収量は増加する見込み。

②環境モニタリングデータ等の活用による栽培管理が行われた。

・対象生産者が環境測定機器から得られたデータを活用し，栽培管理を行うようになった。

③地区内の生産者間の交流が促進された。

・他の生産者の栽培管理に興味・関心を持ち，ほ場を見にいく様子がみられた。

5　これまでの活動成果②

◎定量的数値目標の達成状況

・対象生産者の令和４年度の収量 1.0t/10a（11月～1月末まで）は現在調査中であるが，**おおむね目標は達成される見込みである。**

6　今後の支援について

〇階上いちご第２復興生産組合

⇒令和５年度は普及センターの「**重点活動**」として，収量向上に向けて引き続き支援する。

〇シーサイドファーム波路上株式会社

⇒社内方針により，令和５年産以降はいちごの生産を行わないこととなった。

◎（有）水山養殖場

⇒施設が遊休化する前にいちご事業への参入を決定。一季成りいちごに加え四季成りいちごを交えた周年供給体制を目指し，令和５年３月から栽培を開始する。令和５年度は普及センターの「**プロジェクト課題**」として，生産体制確立に向けて支援する。

7　対象者からのご意見

〇花芽検鏡を行い，計画的に定植を実施できたことで，昨年と比べてクリスマス前の出荷量を大幅に増やすことができた。非常に感謝している。改善点も見えてきたので，引き続き支援をお願いしたい。（階上いちご第２復興生産組合員）